アジア・太平洋林業研究機関連合（APAFRI）の最近の動き

池　田　俊　彌

アジア・太平洋林業研究機関連合（以下 APAFRI）は発足して4年を経過し，その存在と最近の活動はアジア・太平洋地域の林業研究とりわけ熱帯林研究に関わる機関や研究者にとってますます重要になってきている。筆者は発足時から運営委員会メンバーとしてその活動に関わってきたので，ここにこれまでの活動の経緯と最近の動きを紹介する。

1.　APAFRI の概要

1)　背景

APAFRI はアジア・太平洋地域（北南アメリカは含まない）の林業及び林業研究を実施している機関が集まって構成している独立した，非政府組織（NGO）である。APAFRI の設立は，1995年2月20～23日にインドネシアのボゴール（CIFOR：国際林業研究センター）で開かれた，「アジア・太平洋林業研究支援プログラム（FORSPA）」主催の「アジア・太平洋林業研究機関代表者会議」で全会一致で了承され，活動を開始した。設立を促したのは1991年から取り組まれていた FORSPA（ADB：アジア開発銀行，UNDP：国連開発計画，AusAID：オーストラリア国際開発庁等の支援で FAO が実施主体）が1996年で終了するという予測の下に，アジア・太平洋地域における研究機関あるいは研究者の協力活動を構築する上で実際に機能する自立的で持続的な組織体制を作りたいという各国の強い希望であった。したがって，APAFRI は FORSPA の活動の最終成果品であったが，FORSPA 自体はその後オランダ政府からの支援を受け，2000年までは活動を継続することとなっており，この間 APAFRI の活動を実質的に支援してきた。APAFRI の発足当初は事務局も

IKEDA, Toshiya : Recent Movement of Asia-Pacific Association of Forestry Research Institutions (APAFRI)
農林水産省森林総合研究所森林生物部

FORSPA と同じ FAO-RAPA（国連食料農業機関-アジア・太平洋地域事務所）に置かれたが，1997 年 3 月ヴェトナム・ホーチミンシティーで開かれた第一回総会においてマレーシア農科大学（UPM）に移すことが決められ，現在に至っている。また，APAFRI は 1997 年に IUFRO（国際林業研究機関連合）のアジア支部として認められ，IUFRO の開発途上国特別プログラム（SPDC : Special Program for Developing Countries）とは緊密な関係にある。

2） 目　標

上位目標 : アジア・太平洋地域における持続可能な森林管理のための研究の促進

目的 : ①　科学的，技術的知識と情報交換の促進

②　共同研究および共同研修プログラムの促進

③　国，地域，国際研究組織間の連携の強化

3） 組　織

総会（General Assembly）: 加盟機関の代表者により構成され，最低 3 年に 1 回開催される。運営委員会の作成した活動計画および予算計画の吟味，および目的の達成状況のモニターを行う。

運営委員会（Executive Committee）: 年間の活動計画，予算等運営管理を行う。現在のメンバーは以下のとおりである。

議長 : Dr. Salleh M. Nor（マレーシア，前 IUFRO 会長）

委員 : フィリピン，インド，中国，オーストラリア，タイ，日本，マレーシア（事務局長）

事務局 : APAFRI Secretariat, c/o Faculty of Forestry, Universiti Putra Malaysia, 43400 UPM Serdang, Selangor, Malaysia.

Tel : 603-9488313, Fax : 603-9432509, E-mail : kamis@admin.upm.edu.my

4） 会　員

APAFRI の会員資格に制限は無い。地域において林業あるいは関連研究を行っているすべての機関に対してオープンである。年会費は国連の分類基準に基づいて次の 3 種のカテゴリーに分けられる。

カテゴリーⅠ : 先進国の機関	US＄	1,000
カテゴリーⅡ : 開発途上国の機関	US＄	250
カテゴリーⅢ : 低位開発途上国の機関	US＄	50

現在，21 か国 47 研究機関（5 国際機関，4 民間企業）が参加している（表 1）。

5） 会員の特典

表 1　APAFRI 会員機関（1998 年 12 月現在）

* ASEAN Forest Tree Seed Centre, Thailand
* Australian Centre for International Agricultural Research (ACIAR), Australia
* BAIF Development Research Foundation, India
* Bangladesh Forest Research Institute, Bangladesh
* CAB International, Regional Office, Malaysia
* Center for International Forestry Research (CIFOR), Indonesia
* College of Forestry, University of the Philippines at Los Baños, Philippines
* CSIRO, Division of Forestry and Forest Products, Australia
* Department of Forestry, Fiji
* Departrnent of Forestry, Sarawak, Malaysia
* Department of Forest Resources Management, National Chiayi Institute of Agriculture, Taiwan
* Ecosystems Research and Development Bureau (ERDB), Philippines
* Faculty of Forestry, Universiti Putra Malaysia, Malaysia
* Forest Department, Sri Lanka
* Forestry Department, National Taiwan University, Taiwan
* Forestry and Estate Crops Research and Development Agency (FORDA), Indonesia
* Forestry and Forest Products Research Institute, Japan
* Forest Products Research and Development Institute, Philippines
* Forest Research and Survey Centre, Nepal
* Forest Research Centre, Sabah, Malaysia
* Forest Research Institute, Korea
* Forest Research Institute, Malaysia
* Forest Research Institute, Papua New Guinea
* Forest Research Institute–Samarinda, Indonesia
* Forestry Research Center, Solomon Islands
* Forestry Research, Education and Wildlife Institute, Cambodia
* Forest Science Institute of Vietnam, Vietnam
* Indian Council of Forestry Research and Education, India
* Indian Plywood Industries Research and Training Institute, India
* Institute of Forestry and Environmental Sciences, University of Chittagong, Bangladesh
* Institute of Pacific Islands Forestry, USA
* International Network for Bamboo and Rattan, China
* ITC Bhadrachalam Paperboard Ltd., India
* Japan International Research Center for Agriculture Sciences (JIRCAS), Japan
* Kasetsart University, Thailand
* Kerala Forest Research Institute, India
* Pakistan Forest Institute, Pakistan
* Philippines Council for Agriculture, Forestry and Natural Resource Research and Development (PCCARD), Philippines
* Renewable Natural Resources Research Centre, Bhutan
* Rakyat Berjaya Sdn. Bhd., Sabah
* Research Institute of Forestry, China
* Sarawak Timber Association, Sarawak
* Taiwan Forestry Research Institute, Taiwan
* TropBio Research, Malaysia. Rakyat Berjaya Sdn. Bhd., Sabah

(1) 共同研究プログラムの実施に関して，APAFRIによって保証されることにより外部資金へのアクセスが容易になる。

(2) APAFRIの出版物を割引価格で購入できる。

(3) ワーキンググループ，研究集会および研修プログラムへ割引費用で参加できる。

(4) 類似の活動を行っている他の組織との共同活動が容易になる。

(5) APAFRI林業研究賞（別名Rao賞）等の受理・承認資格が得られる。

2. APAFRIの活動

1997年の第1回総会で1997〜2002年の活動計画が練られ，現在もそれに基づいて活動が行われている。この間APAFRIの活動は資金的にも大きくFORSPAに依拠してきたが，FORSPAの活動はAPAFRIを通して行われることが多く，その責務は順次APAFRIに移行しつつある。

1) アジア・太平洋林業研究場所長会議：1995年から2年おきに開かれており，1999年は3月25〜27日に国際セミナー「アジア・太平洋林業研究セミナー：ヴィジョン2010」の一環としてマレーシアのクアラルンプールでUPM，ACIAR（オーストラリア国際農業研究センター），FORSPAの支援のもと開催された。セミナーには21か国90人が参加して2010年を目指した林業研究の現状と展望に関する報告がなされた（写真1）。日本からは，田中　潔（JIRCAS：国際農林水産業研究センター・林業部長），志水一允（森林総研・木材化工部長）および筆者の3人が参加した。最初の1.5日の報告は以下のとおりである。

＊研究と開発：2010年を目指した戦略（マレーシア）

＊アジア・太平洋地域の林業セクター：2010年の展望（FAO）

＊インドにおけるコミュニティー・フォレストリーの挑戦（インド）

＊研究と開発：民間企業から見た展望（インドネシア）

＊今後10年間のインドにお

写真 1 国際セミナー「アジア・太平洋林業研究セミナー：ヴィジョン2010」の参加者。第2列左端がAPAFRI議長のDr. Salleh。

ける林産研究の展望（インド）

＊2010年における代替エネルギー源としての森林（日本：志水一允）

＊ジェンダー（性）問題の今後（タイ）

＊2010年におけるバイオテクノロジー（フィリピン）

＊2010年における森林再生，人工造林（中国）

＊炭素収支および炭素固定に関わる生物多様性（アメリカ）

＊気候変動に関わる林業研究（CIFOR）

＊樹木分子生物学およびその利用（中国）

＊フィリピンにおける森林研究のプライオリティー（フィリピン）

後半の1.5日は各国の場所長が参加してワークショップが開催された。テーマは2010年を目指した各国の重要研究課題を把握することによるAPAFRIの活動方針を作成することである。各々の場所長は適宜グループに編成され，4つのセッションを順次作業していく事となった。それらは，(1)アジア・太平洋地域研究の重要性を評価する枠組みの検討，(2)研究を必要とする林業課題等項目別データ作成，(3)地域における重要課題の選定，(4)短期的重要課題の選定，であり，天然林，プランテーション，アグロフォレストリー，伐採・収穫，加工に関する研究を，潜在的利益，利用能力，科学的ポテンシャル，研究能力といった指標からマーク・シート方式で判断していくといったものであった。これらの結果は後日報告書の形で公表される。

2） 出版物等の発行：ニュースレター“APAFRI BRIEF”（これまで5編発行）のほか，セミナー，シンポジウム等のプロシーディングズおよびAPAFRI刊行シリーズによる出版物がある。 シリーズとしては今年，“Acacias for Amenity Planting and Environmental Conservation”および“The Role of Research and Development in Sustainable Utilization of Matang Mangroves in Malaysia”が発行された。また，昨年発行された“Emerging Institutional Arrangements for Forestry Research”は各国の研究機関の組織再編の実例を紹介しており，大変参考になる。さらに今回，APAFRI参加研究機関で実施されている研究プロジェクトのデータ・ベース“On-going and Completed Forestry Research in Asia and the Pacific”が完成し，CD-ROMで配布されている。

3） 各種ネットワークの構築：昨年から，CIDA（カナダ国際開発機関）の基金によって実施されてきたTreeLinkプロジェクト（林業研究の普及，訓練，情報交換，応用研究等）の運営を実質的に担当。その他，アカシア・ネットワー

ク，チーク・ネットワーク等を形成している。

4） その他の活動：(1) Y.S. Rao 賞（FAO-RAPA で長年途上国の林業研究支援に携わってきた Dr. Y.S. Rao の功績を称えて創設された研究奨励賞で 35 才未満の研究者を対象）の選考を実施中。(2) 2000 年の IUFRO 世界大会（クアラルンプール）において APAFRI 主催のシンポジウムを計画中。テーマは「水と森林」（予定仮題）。(3) 林業研究が事業等（特にプランテーション）に生かされた成功例の特集号の発行を計画中。

3. APAFRI 加入の勧め

APAFRI にはアジア・太平洋地域の主たる林業研究機関のほとんどが加入しており，CIFOR, FAO, CABI 等の国際機関も APAFRI の傘下で活発な活動を展開している。また，APAFRI は地域の林業研究のみならず，森林・林業・林産業の動向に関する情報を最も豊富に有している。しかしながら，日本の林業研究機関や林業セクターはアジア・太平洋地域において様々な研究活動を実施しているが，ともすれば一対一対応，二国間対応の傾向が強く，地域全体の流れとは無関係，あるいはそれを意識することなく活動している傾向が強い。日本の技術協力を含め，プロジェクトの立ち上げやスムーズな運営のために APAFRI を利用されることを強くお勧めする次第である。

現在，APAFRI の予算は年間 5 万ドルに過ぎない。多くの活動費は FORSPA に依拠しているが，FORSPA は 2000 年にはその活動を終えようとしている。今後は APAFRI が真に一本立ちしていかなければならないがその財政的基盤は弱い。運営委員会では 2000 年以降の APAFRI の持続的な活動を支えるためのコア・ファンドや各種プログラムに対して日本を始めとする先進国や国際機関の助力を求めている。また，IUFRO のアジア・太平洋地域チャプターとしての APAFRI の機能を高めるためにもより多くの機関，特に数多い研究機関のある日本からの更なる加入が求められている。加入には年会費 US＄1,000 が必要であるが，アジア・太平洋地域において活動されている機関の参加を強くお勧めする次第である（加入手続きに関しては筆者にお問い合わせください）。